

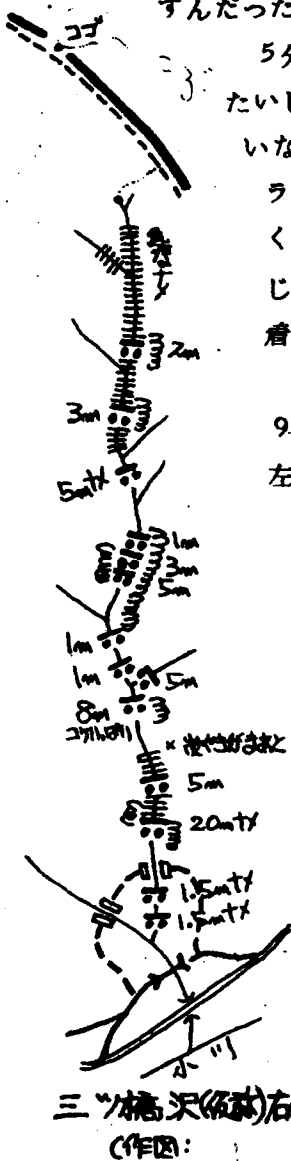
じゃかごに石をつめたものを積み重ねただけの簡単な砂防ダムが出てくる。右岸をみると林道がみえる。どうも営林署がさかんに伐採を進めている地域のような。大岩を越えたあたりでは、もう沖根山林道がすぐそばを走っていた。10時ちよろどに沢から上がる。

小尾根2つを越えて10時45分、右沢への下降を開始する。ここまでくるのにまさか道があるとは思わなかったから、下降点を求めてどんどんヤブをこいでいたら、しっかりした踏跡に出た。これなら左沢源頭の伐採地のあたりでよくさがすんだったと思ったが、いたしかたない。

5分も下ると急傾斜のナメとなる。ナメというのは登る時にはたいして障害ともならないが、下降する時には、なかなかやっかいなしろものである。所々ブッシュにつかまったり、慎重にクライミングダウンしたりしながら進む。20分程下ってようやく傾斜がゆるやかとなり、歩きやすくなった。ナメは小滝をまじえながら左沢との出合までずっと続いていた。左沢出合到着12時ジャスト。

(記)

廻行開始(8:35)——中俣出合(8:45)——右沢出合(9:30)——沢終了(10:00)——下降開始(10:45)——左沢出合(12:00)——下降終了(12:30)



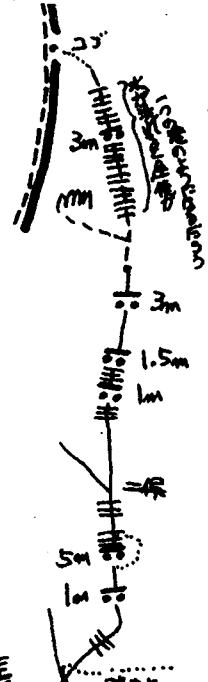
三ッ橋沢(仮称)右俣

1982年6月12日

天気晴。14:15廻行開始。水量はぐっと少ない。この沢は雪どけ時期や大雨の後以外は、いつもわずかの流れでしかない。今は橋脚だけとなってしまった、13号国道の一番古いルートにかかる名残りの橋を過ぎるとすぐにナメ滝。どまん中を登る。その上の5m滝を越えると100mほどのナメが続く。沢幅がせまく、樹林中なので、ナメ特有のそう快さは味わえない。カモシカの足跡がいっぱいいつている。どうも通り道になっているようだ。左岸に昔の炭焼き釜のあとをみる。8mのコケいっぱい滝が出てきた。すべらないよう、気をつ

けながら通過する。このあたり、ちょっと雰囲気がいい。次の5m滝はどまん中を直登。水が多ければこんな芸当はできない。もっとも左右どちらも簡単に登れる。沢幅もせまくなってきた。もうこの沢も終わりだ。急なナメを登りきると岩の間からしみ出す水が水源となっていた。14時50分。ここから右手尾根上めざしてやぶをこぐ。尾根上にはわずかだが踏跡があった。(記)

出合(14:15)——沢終了(14:45)——尾根(15:00)



1982年6月12日

猪沢(下降)

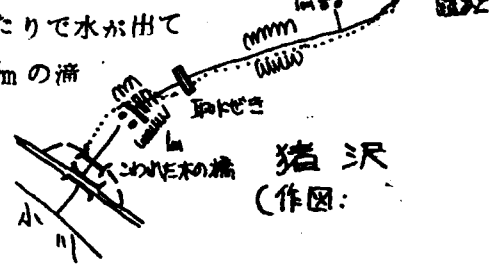
標高約860mの小ピークまで登ってから猪沢に向けて下降開始。

すぐにカレ沢に出る。急な岩場の下りで、ブッシュにつかまりながら下る。雨が降って水が流れると、一つの大きな滝となりそう。傾斜がゆるやかとなってきたあたりで水が出てきた。ナメと小滝が出てくるが平凡だ。5mの滝

を越えると、沢の切れこみが深くなってきたが、単調さは変わらない。踏跡も出てきた。左岸の小尾根から下ってきて、沢ぞいにずっと続いている。どうもこの

沢ははずれのような。16:25取水口に着く。沢の中を鉄管を通して水を引いている。どこへ引いていくのかは確かめなかった。16:30こわれた旧国道の橋の下をくぐり、13号国道に上がる。(記)

下降開始(15:10) 二俣(16:05) 13号国道(16:30)



1982年5月26日

西川右俣右沢(下降)

L

下りはじめるとすぐ水が出てきた。ナメ状となっている。次々と支沢を合わせ、小滝を越えてゆく。下ってゆくうちに、右岸に鉱道あとがあった。ここで何をほっていたのだろうか。更に小滝をいくつか越えてゆくと4mの滝に出た。両側が岩壁